あなたのビジネスをインターネット上でサポート
DGnet URL ● http://www.isico.or.jp

新産業創出のための総合的支援情報誌「イシコ」

ISICO

Ishikawa Sunrise Industries Creation Organization

Vol 13
2002 AUTUMN

巻頭特集

絶え間ない経営革新が競争力アップの鍵を握る

急変する環境への対応力を強化せよ！

産学官連携情報
トライアングル
石川県工業試験場／開放型モノづくり支援センター（仮称）

筑波研究学園都市紹介
つくば石川交流FILE
原田 広史 氏（独立行政法人 物質・材料研究機構）
（株）エンバイオテック・ラボラトリーズ

創造的企業ルポ
21世紀のチャレンジ
クリーンテック（株）／オリエンタルチエン工業（株）
（有）エルダーシステムコンサルタンツ／ゆーぷら21

産業創出の支援機関紹介
ZOOM UP SUPPORTER
財団法人　石川県中小企業振興協会

情報化時代のIT活用事例
実例に学ぶ　IT戦略
山口陶器店

インフォメーション・テーブル
イシコ・トピックス

急変する環境への対応力を強化せよ！

巻頭特集

絶え間ない経営革新が競争力アップの鍵を握る

Management Innovation

いまだバブル時代の負の遺産を清算できず、
低迷を続ける日本経済。
そして、過去の成功体験への過剰適応が
マイナス方向に作用するという悪循環を断ち切るには、
絶え間ない経営革新こそが不可欠となっている。
今回の特集では、企業の競争力を向上させる「経営革新」に
スポットを当て、その方法論を探ってみたい。

旧態依然は、「負け組」への序章

経営革新とは、一口に言えば変化し続ける環境への対応力の強化である。

世界を一つの経済圏とした大競争時代が到来し、IT革命や規制緩和、デフレ、環境問題の進行など、企業を取り巻く環境は時々刻々と変化している。かつて経験したことのないスピードで変わる中で、企業が過去の枠組みにとらわれ、旧態依然としていたのでは、たちまち競争力を失うことは火を見るより明らかだ。

環境の変化をいち早くキャッチし、経営体質の改善、スピードや効率性の追求など、日々の企業活動の中で自らも変化し続けなければ、もはや、生き残れないと言えるかもしれない。

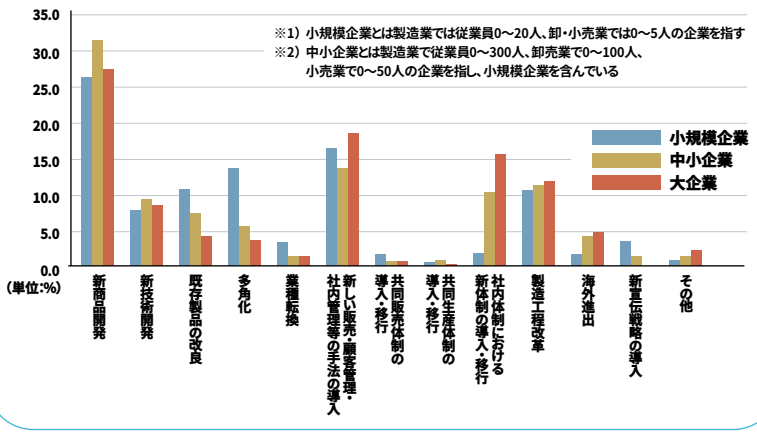
とはいえ、経営革新は何も特別な取り組みというわけではない。経営手法や組織の改革、人事評価の刷新といった全社的なものはもとより、新商品や新技術の開発、作業工程の見直しなども含まれるからだ。

2002年版の「中小企業白書」によれば、経営革新として新商品開発に重点を置く企業の割合が最も多く、特に規模の小さな企業においては多角化や既存製品の改良に取り組む割合が高い（※左表）。

――― それでは、近年注目を集める経営革新の手法とそのケーススタディを見ることにしよう。

経営革新で最も力を入れた活動内容は?

中小企業庁「企業経営革新活動実態調査」（2001年／12月）



コア・コンピタンス経営

コア・コンピタンスとは、他社にまねできない核となる経営資源のことである。これを無視して、多角化や事業再構築を図っても失敗に終わる可能性が大きい。長年蓄積されてきた技術力や既存の営業ネットワーク、情報力、ブランド力など、コア・コンピタンスという自社固有の経営資源を明らかにした上で、そこから新たな製品開発や事業展開を進めるわけである。G・ハメルとC・K・プラハラードの著書「コア・コンピタンス経営」によって広められた。

example

(株)安土鉄工所（あんづち）

小松市長田町口58番地／TEL. 0761(22)2267

蓄積された切削技術を生かして自動車部品へと方向転換

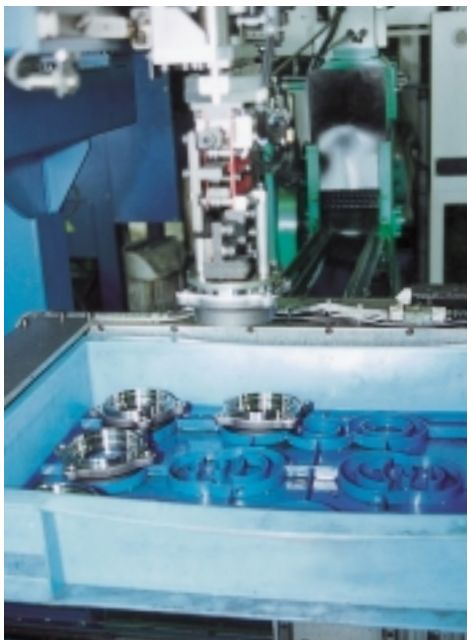
このコア・コンピタンス経営によって経営革新を進めてきたとも言えるのが安土鉄工所（小松市）である。昭和22年創業の同社は、24年大手建設機械メーカーの協力工場に指定され、38年からは卓越した切削技術を生かしてブルドーザーなど大型建設機械用の特殊ナットへの専門化に踏み切った。40年代から50年代初頭にかけては、ほぼ100%が大手建設機械メーカーからの受注だった。

しかし、50年代も半ばに入って、建設機械の需要が急速に縮小するのと軌を一にして、安土鉄工所の受注額も最盛期の約半分になってしまった。ここで同社が乗り出したのが、自動車の特殊ベアリングの製造である。ナットとベアリングは一見すると別物だが、内径にらせん状の溝を切るという点では共通している。鍛造品を熱処理した後に溝を切る工程は、高度な加工技術が要求される分野であり、同社がこれまで培ってきた技術を十分に生かせたというわけだ。

その後、同社では自動車部品の製造に力を注ぎ、大型二輪車用部品やパワステ用部品も手がけるようになった。今では、売り上げの97%を自動車部品が占めるまでになっている。

このほかにも、製造工程のライン化や無人化への工夫にも取り組み続け、メーカーからのコストダウンの要求もクリアしてきた。

同社が見事に復活した要因は、コア・コンピタンスを「ナットの製造」でなく「高精度・高能率切削加工」と見極めて、新たな戦略を描いたことであり、それがなければ今のように自動車部品メーカーへと急速にシフトチェンジできなかったのではないだろうか。



（写真上）特殊ナット製造で培った技術力を生かしてベアリング製造へと方向転換した安土鉄工所の安土達雄代表取締役。
（写真左）製造工程のライン化や無人化へも積極的に取り組む。写真は、完成品を自動的にメーカー指定のケースに収めるオリジナル機械。

全社統合システム

生産や調達、在庫、販売、財務・管理会計、人事など、企業の経営資源を一元管理するためのシステム。それまでばらばらにデータベース化されていた情報を一本化して共有することで、効率的な情報運用を図る。これを実現するパッケージシステムとして注目されているのがERP(※)である。

（※）ERPの特徴は、既製品でパッケージになっているのでばらばらにデータベースを構築し、一元化するよりもコストが安く上がること、そして入力データを自由に検索や集計、分析できることである。

example

（株）ヨシカワ

金沢市北安江3-1-33／TEL. 076（265）4111

「西暦2000年問題」を機にERPを導入し情報を一元管理

建設機械のリースを手がけるヨシカワ（金沢市）では、平成11年10月にERPを導入し、営業状況や在庫管理、財務などのデータベースを一本化した。きっかけは、いわゆる「西暦2000年問題」だった。

それまで同社では、オフコンを使って、在庫管理や顧客管理、財務管理など、それぞれ個別のデータベースを構築し運用していた。そして、オフコンのシステムエラーが懸念された2000年を迎えるのに当たり、ソフトウェアのプログラムをチェックし、修正する必要に迫られた。この作業は、膨大なコストがかかる上、エラーを防止するためにだけ行う後ろ向きな投資である。

そこで、現状を維持するだけのために投資をするよりは、思い切って今までの情報システムを捨てて、全社をネットワーク化し、グループウェアなどほかのアプリケーションソフトと連携する機能性の高いシステムに切り替えることを選んだのだ。短期間でしかもローコストでシステムを稼働させられることから、豊富な業務機能を有するパッケージシステムであるERPを採用した。

受注やリースの延長、資材の返却などの業務上の個別処理が、入力した時点で即座にデータベースとして構築されるため、それまで本社で集中して行っていた電算処理の必要がなくなり工程数を削減できたほか、在庫状況が各営業所でリアルタイムで分かるため営業計画が立てやすくなった。また、入力した情報がそのまま会計情報として反映されるため、業務効率が上がるとともに、スピーディーな財務処理が実現するなど、成果を挙げている。

eコマース

インターネットを使った商取引のこと。企業が消費者（個人）に対して、インターネット上のホームページ等を介して商品・サービスを販売・提供し、料金を受け取る「B to C（Business to Consumer）」と、企業同士が、主に部品の調達や製品の販売などの商取引データ、受発注の情報をインターネット上で電子的にやり取りする「B to B（Business to Business）」がある。アメリカでは、「B to B」市場が「B to C」市場の何十倍にも膨れ上がっており、日本でも今後は「B to B」市場の活性化が予想される。

example

（株）有川製作所

金沢市北安江1-8-3アリックスビル2F／TEL. 076（263）6225

ホームページ活用し、提案型企業への脱皮図る

住宅建築用部品やコンピュータ部品、各種産業機械、パーツ製品などのプレス加工、プレス金型製作を行う有川製作所（金沢市）は、まさにこれから「B to B」市場に取り組もうという企業である。

同社は、ISICOの産業IT化計画策定補助金を活用し、ITの専門家であるITコーディネータ(※)の派遣を受けて、約1年をかけてB to Bに対応したホーム

ページを構築してきた。

ホームページ上には、現在1,000を超える同社のアイテムについて、製品写真や価格、素材、仕様、発注した場合の納期を明示し、同時にweb上で発注も受けられる仕組みだ。実際の運用はこの9月末からであり、成果が挙がるのはまだまだこれからである。しかし、インターネットを使った顧客への情報提供と受注はもとより、ユーザーからのニーズやクレームなどさまざまな情報も吸い上げていくことで、自社製品の改善や品質向上に加えて、受注型という待ちの姿勢から提案型の企業へ、そして下請けではなく顧客メーカーのパートナー企業として体質転換を図りたいと期待を寄せている。

※ ITコーディネータとは
経営者の立場に立って経営とITを橋渡しし、直に経営に役立つIT投資を推進、支援するプロフェッショナルです。

（写真上）この9月末から運用をスタートする有川製作所のホームページ（http://www.arikawa-works.co.jp）
（写真左）インターネットを使った受注はもちろん、社員の情報共有化やユーザーからの情報収集にも期待をかけている。

他の経営革新手法

サプライチェーン・マネジメント

サプライチェーン・マネジメントとは、企業横断的に調達から生産・販売・物流の業務の流れを1つの「供給の鎖」（サプライチェーン）ととらえて情報の共有化を図り、全体を最適に管理するマネジメント手法である。需要情報に合わせて、最適な時に最適な量だけ生産・供給することにより、過剰在庫や販売機会ロスを削減、キャッシュフロー効率を上げることを狙う。

カンパニー制

事業部制よりも組織ごとの独立性、自律性を高め、独立した企業のように運営する組織形態がカンパニー制だ。意思決定と実施のスピードアップ、事業への参画意識が高まることで組織の活性化につながる。統括サイドの本社側にとっても収益に基づき経営資源を効率的に配分することができる、ベンチャースピリットあふれる経営トップの育成ができるといったメリットがある。

シックスシグマ

シックスシグマとは、ビジネスにおけるあらゆるエラー・欠陥の発生率を100万分の3〜4以下に抑えるシステム・プロセスを構築するために不可欠な業務改革を、組織が一体となって行うこと。「測定」「分析」「改善」「改善結果定着のための管理」の4つのプロセスを経て、最終的にシックスシグマの基準に到達することを目指す。日本のポケベル市場に参入しようとした米モトローラ社が、品質向上を目指したのが始まりと言われる。

経営革新支援事業が
前向きな取り組みをサポート

以上、紹介してきた経営革新の方法論を実践する上で、資金・情報・人材・技術など、中小企業にとってはクリアすべき課題も多く、自力でその第一歩を踏み出すのが厳しいことも否定できない。その際、強力なサポーターとなりえるのが「中小企業経営革新支援事業」である。

同事業では、中小企業が新商品の開発、新たな生産方式の導入、その他の経営の向上を図る場合、低利の融資制度や補助金制度によって支援する事業で、利用の手順は右図のようになっている。

これまで全国で5,500社以上、石川県内でも約120社が同事業の承認を受けている。この事業を活用して新たな分野を拓いた県内企業を紹介する。

■ 中小企業経営革新支援事業

STEP 1 **経営革新計画の作成**
（ISICOが作成にご協力します。）

STEP 2 **都道府県への申請**

都道府県の審査と承認

STEP 3 **各種支援策による支援**

- 政府系中小企業金融機関の低利融資制度
- 設備投資減税等の税制の特例制度
- 中小企業信用保険の別枠が利用できる特例制度
- 補助金制度
- 新規成長分野雇用創出特別奨励金制度　等

STEP 4 **各種支援策の組み合わせで経営革新を実現**

※ 詳細は、ISICO経営支援センターにお問い合わせを！

部品単体からモジュール製品へ、高付加価値路線へアクセル踏む

example

（株）板尾鉄工所 小松市工業団地1-65／TEL. 0761（22）5453

建設機械の部品メーカーとして成長してきた板尾鉄工所（小松市）では、部品単体から一つの構成単位に組み立てるモジュール化を進め、付加価値の高い製品づくりに力を入れている。

これまで部品を納めてきた国内重機メーカーが、大競争時代の中、部品調達のグローバル化を加速させるのをにらんでの戦略。平成11年に生産を開始したパワーショベルの履帯に使うアイドラー（誘導輪）のモジュール製品は、大手重機メーカーの人気機種に採用され、今では同社の主力製品の一つとなっている。

また、12年には国の中小企業経営革新支援事業の承認を受け、融資や助成金でモジュール化拡大の基盤となる設備投資や新製品の研究開発などを行ってきた。承認を得るための経営革新計画書の作成にあたっては、以前からISICOや県鉄工機電協会などに、技術面や経営面でのアドバイスを受けていたことが役立った。

同社の板尾昌之経営企画部長は、「明確な経営革新の方向性があったので、計画書づくりに不安はなかった。ビジネスプランは、事業目標を分かりやすい形にできるので経営の励みにもなる」と、その効果を歓迎する。

今後も、モジュール製品の比重を高めるとともに、シフトチェンジの成功にとどまらず、新分野への進出も視野に入れていく方針だ。

生産ラインの増設には、中小企業経営革新支援事業の融資を受けた。

アイドラーの成功を受け、新たなモジュール製品の開発に取り組む期待をかけている。

★ message

あなたの会社には、経営理念がありますか？

経営理念とは、言ってみれば企業経営の軸足にあたり、企業活動の方向性を見極める上でよりどころとなるものです。経営理念がはっきりしない、あるいはこれを無視したり、ここから大きく外れた場合、事業が失敗するケースが多々見受けられます。まずは、経営理念をしっかりと確立し、社員はもちろん、取引先や金融機関にも浸透させることが大切です。

経済状況がなかなか好転しませんから、目先の売り上げや資金繰りのためについつい受け身に回ってしまい短納期の仕事を言われるままにこなすこともあるでしょう。しかし、そんな受動型の業務に自社の経営資源の100%を使っていては企業に未来はありません。苦しくても何とか5～10%は、品質や納期などのレベルアップ、新商品の開発など経営革新に力を注いでほしいと思います。

そのために、3年～5年スパンで中期計画を立てることをおすすめしています。中期計画は、経営理念を受けて経営方針、経営目標、重点活動項目等をまとめたものですが、経営者の方が漠然と頭の中で考えているだけでなく、文書化して社員と共有化を図り、達成度を定期的にチェックすることで、自社の強みや弱みを再確認することができます。そして、明確になった課題や問題点の解決に向けて手を打つことが、経営革新につながるのです。その具体的な活動そのものが評価されていることを認識して下さい。

ISICO アドバイザー（経営支援）
北嶋 正廣
●得意分野
経営管理、マーケティング、
工場管理、IE、TQC

ITで経営革新したい！そんな企業、必見のイベント

中小企業IT国際フォーラム＆フェスタ2002

― IT導入で加速する、中小企業の経営革新 ―

フォーラム

基調講演　ビル・トッテン氏（株式会社アシスト代表取締役）

テーマ「IT経営の誤解と真のIT活用」

アメリカで経済学博士号をとり、日本でコンピュータソフトの販売会社を立ち上げた異色の実業家が中小企業のIT活用策について語ります。

公開討論

テーマ「電子政府の実現と中小企業経営の変革」

電子政府を実現したカナダの政府関係者や専門家、中小企業家らが、行政の電子化やそれにともなう企業経営についてディスカッションします。

●日時／10月29日（火）13：30～17：15
●会場／石川県立音楽堂コンサートホール

フェスタ

全国の中小・ベンチャー企業が、自ら開発したIT関連商品や経営革新に役立つITツールの展示、実演を行いビジネスマッチングを強力に支援します。

●日時／10月29日（火）10：00～18：00
10月30日（水）10：00～16：00
●会場／金沢全日空ホテル 3F　鳳／ホワイエ

参加企業募集中!

情報化関連施策・ITアドバイスコーナー

国・県の情報化関連の各種補助金・助成金等の紹介をはじめ、ITコーディネータ等専門家によるIT導入や戦略的な情報化投資の方法等について、相談、アドバイスを行います。また、情報化関連以外にも中小企業、ベンチャー企業の総合支援についても、お気軽にご相談下さい。

詳細は…URL http://www.isico.or.jp/it-forum/

■主　催／中小企業総合事業団、全国中小企業情報化促進センター、（財）石川県産業創出支援機構
■お問い合わせ／（財）石川県産業創出支援機構　TEL. 076(267)1001

TRIANGLE

石川県工業試験場
開放型モノづくり支援センター（仮称）

製品開発のサポート基地として来年1月オープン

写真左／「三次元CAD/CAMシステム」のデータは、そのまま加工用のデータとして利用できる。
写真右上／特殊な織物の試作ができる「電子ドビー付レピアルーム」。
写真右下／複雑な加工に使われる「5軸高速マシニングセンタ」と円筒状の部品を加工する「NC高速精密旋盤」。

石川県工業試験場が来年1月からスタートさせる開放型モノづくり支援センター（仮称）は、設計や加工などに使う数々の機器をそろえた施設として、地元企業の製品開発（モノづくり）をさらに強力にサポートします。オープンに向けて整備が進む同センターの概要を紹介します。

開放設備、実験機器を集約

モノづくり支援センターは、県工業試験場１階の実験棟に開設される。

一番の特徴は、試作開発の効率化を図るために開放設備・機器類をワンフロアに集中させた点にある。従来は、設計用のＣＡＤシステムが実験棟から離れており、設計、加工、実験、評価など一連の開発工程を行う上で不便さが指摘されていた。

支援センターではこの問題を解消し、開放設備・機器など約４０台を実験棟に集めるとともに、３次元測定機や小型染色機など１１台を新たに導入して、高精度、多様化する企業ニーズに対応する予定だ。

同時に、支援センターが業種横断的にモノづくりをトータルサポートする体制を整えることで、機械、繊維、食品などの異業種がセンターを介して出会い、情報交換や共同開発のきっかけとなる交流の場としての期待も高まるのである。

開発コスト削減と技術アドバイス

メリットはこればかりではない。企業にとっては、設備投資を抑制して開発コストを下げたり、自社設備ではできなかった精密な加工や詳細な評価が可能であり、製品の高付加価値化の足がかりにもなる。支援センター利用の際に、機器の取り扱いや技術的な課題に関するきめ細かな指導を受けられるのも魅力だ。

県では、隣接する新分野創造開発支援センターとの連携を視野に入れながら、将来的には新事業開拓や産学連携までを含めて、足腰の強い石川のモノづくり基盤を育てるための総合支援の場にしていきたい考えである。

同試験場の新村誠一情報指導部長は、「既存企業、ベンチャー、教育機関などから、モノづくりに取り組むあらゆる人々が集まる場を目指している。企業側の要望を聞きながら、平日の時間外の開放や新しい機器の増設、研究テーマの公募なども検討していきたい」と話している。

● お問い合わせ
石川県工業試験場情報指導部　金沢市戸水町ロ１
TEL076-267-8081 FAX076-267-8090　http://www.irii.go.jp

つくば石川交流 FILE

筑波研究学園都市にある研究機関の研究員や、共同研究を行った県内企業の取り組みなどをご紹介するコーナーです。

PEOPLE FILE . 02 ▶▶

原田 広史 氏 （独立行政法人 物質・材料研究機構）

エネルギー消費を減らす耐熱素材を開発中

原田氏は現在、新しい耐熱素材の開発に5年プロジェクトで取り組んでいる。耐用温度1100℃をめざすというニッケル基超合金などの新素材は、火力発電所やジェットエンジンに組み込まれる耐熱タービン翼としての使用を見込む。

プロジェクトは4年目に入り、実物の発電用ガスタービンを使った回転試験にも成功、実用化に向けて順調に研究が進んでいる。原田氏は、「タービン翼の耐熱性を向上させることで、熱効率が上がり燃料消費を減らすことができる」と話し、排出CO_2の削減による地球温暖化防止やエネルギー資源の有効活用に期待を込める。

原田氏は7年前、石川県内で講演したのをきっかけに筑波石川研究交流会に所属し、昨年からは理事を務める。「石川県には、技術力のある企業が多い」と語り、今回のプロジェクトでも、ハウメット・ジャパン(寺井町)と共同で、新素材の鋳造実験に取り組んでいる。

原田氏が籍を置く物質・材料研究機構は昨春、独立行政法人に移行した。「研究者サイドにも民間企業への技術移転に取り組みたいという意識が高まっている」（原田氏）と、産学連携にも意欲的である。素材開発に頭を悩ませている企業は、ぜひ声をかけてみてほしい。

独立行政法人 物質・材料研究機構
茨城県つくば市千現1-2-1
TEL.0298-59-2503（直）
FAX.0298-59-2501
http://www.nims.go.jp/
harada.hiroshi@nims.go.jp

COMPANY FILE . 02 ▶▶

(株)エンバイオテック・ラボラトリーズ

製品開発に生かす国立環境研究所の客観的評価

エンバイオテック・ラボラトリーズは、メダカの血液を使った環境ホルモンの測定キットなど、生物の中に存在するさまざまな物質を利用して、有害化学物質の検出センサー・測定キットを開発・製造するバイオベンチャーだ。本社は東京にあり、共同研究を実施している北陸先端大に近く、かつ、水を使え、実験用マウスを飼うことができるなど、バイオベンチャーに欠かせない研究環境を求めて、平成11年9月、いしかわクリエイトラボに研究室を開設した。

生化学分野の権威として知られる筑波大学名誉教授の村上和雄氏を取締役に招き、同大の研究シーズを基に研究開発を進めるなど、筑波研究学園都市とのかかわりも深い。現在開発中のPCB検出センサーについても、独立行政法人 国立環境研究所（つくば市）と共同研究の真っ最中である。

このセンサーは、抗原抗体反応を利用してPCBを検出する仕組みで、すでにマウスを使ってPCBに反応する抗体を作製した。環境問題の研究では国内随一と言われる国立環境研究所との連携について同社の西村実常務取締役は、「測定精度などを客観的に評価してもらうことで信頼性を裏付けることができるし、複数の構造を持つPCBをすべて一つのセンサーで測れるようにならないかなど、ユーザーの視点に立ったアドバイスも参考になる」と話し、来春の販売開始に向け手応えを感じている。

能美郡辰口町旭台2-13　いしかわクリエイトラボ204号
TEL/FAX.0761-51-7161
http://www.enbiotec.co.jp/

生ごみ処理システムで全国トップシェアに

ベンチャー

クリーンテック（株）

■ **本社**　金沢市専光寺町レ４番地13
TEL 076-266-1234
■ **代表者**　伊戸川博
■ **設　立**　昭和60年2月
■ **資本金**　3,000万円
■ **社員数**　42名
■ **事業内容**
浄化槽及び合併処理施設、農業集落排水処理施設、産業排水処理施設の設計施工、生ごみ処理システム「リウォーター」の製造・販売
URL　http://www.clean-tec.co.jp

クリーンテックは、平成１０年に発売した家庭用生ごみ処理システム「リウォーター」で、業界トップの３０％近いシェアを誇っている。

リウォーターは、台所から出る生ごみを排水とともに流し、ディスポーザーで粉砕した後、処理槽で分解処理して下水道に流す。においがなく、余剰汚泥もほとんど発生しないなど、同業他社の製品との差異化を図っている。

浄化槽メーカーとしては後発だった同社が、家庭用生ごみ処理システムの分野に進出したのは８年前。主力のし尿処理浄化槽が、公共下水道の普及で頭打ちになるのを見越しての戦略で、開発は技術提携を持ちかけてきた大手家電メーカーと共同で行った。

同社が担当した処理槽には、浄化槽で培ったバクテリア培養のノウハウが詰まっている。その一つが、バクテリアを活性化するため、槽内に入れた大量のスポンジであり、この技術は現在、特許申請中だ。

これら同社が得意とする処理技術に対して、今年だけで既に３件の提携の打診があった。伊戸川博社長は、「技術が優れていれば、小さな会社でも世の中に認められる」と話し、独創技術のさらなる進化と応用に意欲を見せる。

全自動ラインで携帯電話用ヒンジユニットを製造

新分野進出

オリエンタルチエン工業（株）

■ **本社**　松任市宮永市町485
TEL 076-276-1155
■ **代表者**　西村武
■ **設　立**　昭和22年8月
■ **資本金**　10億6695万円
■ **社員数**　142名
■ **事業内容**
動力用チェーンの製造・販売、搬送用チェーンの製造・販売、各種機器類の製造、各種輸送設備の製造・販売、精密機械関連部品の製造・販売
URL　http://www.ocm.co.jp

世界最小の動力用超小型チェーンで全国トップのシェアを誇るオリエンタルチエン工業では、昨年4月から折り畳み式携帯電話のヒンジ（ちょうつがい）ユニットの製造に乗り出している。

同社のヒンジユニットは、従来品に比べて部品数が少なく、耐久性に優れているのが特長だ。さらに、今年からは、全自動の生産ラインを使って本格的な量産を開始し、月平均の生産額は、昨年の４００万円から２０００万円に急増している。また、ラインには、内視鏡などに使われる同社のミニチェーンの製造技術を応用しており、製品の質の安定と製造コストの削減、人為的ミスの減少などに大きな効果を上げている。

現在、同社は標準チェーンの生産をコストの安い中国に委託する一方で、国内では付加価値のある高級チェーンや特殊チェーンの製造を目指している。越田義弘管理部長は、「チェーン製品はすでに成熟しており、製造の国際分業化が予想される。今後は通信や医療など成長の見込める分野で新製品を製造し、シェア拡大を目指したい」と語る。

ヒンジユニットに加え、今年度後半からは金属射出成形にも取り組む。従来のプラスチック射出成形技術を精密な金属部品の生産に応用し、さまざまな分野での製造に携わっていく方針だ。

産業構造の高度化、急速な技術革新が進む中にあって、企業にとってはビジネスチャンス獲得のために新たなチャレンジが求められています。生き残りをかけ、独自の取り組みを見せる4社を紹介します。

高付加価値へ独自ソフト開発

SOHO

（有）エルダーシステムコンサルタンツ

インターネットのシステム構築や企業紹介のホームページ制作を手がけてきたエルダーシステムコンサルタンツ。起業から約10年がたち、「とにかく形に残るものをつくりたい」（里見実代表取締役）との思いから、今年、同社にとって初となるパッケージソフトウエアを開発、発売した。

人間統計学を基に個人の性格や資質、能力、適職を診断する人材能力活用ソフト「面接くんVer2.0」で、採用や異動の際の人事データとして力を発揮する。里見氏は、国鉄、ＮＴＴで長年システム開発に携わった経験があり、統計学に精通した友人の力も借りて共同開発した。

4月の「いしかわ情報システムフェア」で注目を集め、これまで得意先にしてきた民間企業に加えて、コンサルタント会社や学校などへ販路を開拓していきたい考えだ。これと並行して、現在、人間統計学を活用した営業用ソフトの開発が進行している。

自社ソフトの完成を契機に、より付加価値の高い商品づくりを追求する戦略の一環であり、「企業や組織では、適材適所、能力再開発が至上命題であり、そのニーズにこたえていきたい」と、里見氏は語る。

■ **事務所**　野々市町野代3丁目27
レセナ4-101
TEL 076-294-8388
■ **代表者**　里見実
■ **設　立**　平成4年12月
■ **資本金**　300万円
■ **社員数**　2名
■ **事業内容**
システムコンサルタント、アプリケーションソフトの開発･販売、パソコンの技術指導
ＵＲＬ　http://www.elder.co.jp

健康と安全をキーコンセプトに

異業種交流グループ

ゆーぷら21

「ゆーぷら21」は、機械、電気、食品、農業など県内各地から集まった20社が、健康や安全の視点から商品開発に取り組んでいる。これまでに、無農薬有機大豆で作り、乳酸菌とＥＭＸを配合した豆腐や人体に無害な除虫剤などを開発し、会員企業で販売してきた。

同時に、自治体や他の異業種交流グループと連携した取り組みにも力を入れている。その一つが、今年6月、「おにぎりの町」をキーワードに活性化を目指す鹿西町に他の3つのグループを加えて、松任市で開いた「おにぎり」キャンペーンで、能登の古代米で作ったおにぎりや白山地ビールなどを販売した。代表の堀内外喜夫氏は「自治体や他のグループと協力して事業を行うことで、地域全体を活性化させ、ものづくりをまちづくりにつなげていきたい」と狙いを語る。

会員間の情報交換や商品開発について話し合う定例会は、2カ月に1度のペースで開いている。また、「健康と安全」という開発コンセプトにそって、古い木造の農家や自然食品の店などを開催場所に選んでいる。今後は、商品ジャンル別に分科会を設置して具体化を図っていく考えで、当面は無添加の健康食品や血圧計などの機能を持つ携帯電話の開発に取り組む計画である。

■ **事務局**　金沢市間明町2-338
TEL 076-291-3202
■ **代表者**　堀内外喜夫
■ **設　立**　平成5年4月
■ **構成員数**　20社
■ **事業内容**
新商品の研究開発、研修会などの交流事業
ＵＲＬ　http://www.yu-pura21.net

技術開発からマネジメントまで、
石川県産業創出支援機構と力を合わせて、
皆さんをサポートする機関や団体をご紹介します。

財団法人
石川県中小企業振興協会

石川県中小企業振興協会のオフィス

中小企業の顧客開拓と設備投資に力

技術、製品の売り込みを積極サポート

石川県中小企業振興協会は、県内中小企業と県外企業との取引の斡旋（あっせん）による顧客開拓や設備投資に対する支援に力を入れている。

取引斡旋は、企業のアウトソーシングが進む中、職員と専属のアドバイザーが同協会に登録する県内中小企業の得意分野や技術、製品をまとめた名簿を持って全国の大手企業を回り、受発注の橋渡しを行うもので、13年度は411件にのぼる案件を斡旋し、約20億円の成約実績を挙げている。

また、取引斡旋と同様に、県内企業の開発した新製品を企業や公共団体などに売り込む販路開拓支援事業も行っており、13年度は7件で約1億3000万円の実績を挙げた。商品に対するユーザーの意見は、アドバイザーによって開発元の企業にフィードバックされ、改善や今後の開発のヒントに役立っている。

設備の貸与・資金貸付と専門家の派遣

設備投資支援では、12年度から工場の生産ラインなどの機械のリースや割賦による貸与のほかに、設備価格の半額以内で最高6000万円までの設備資金を、無利子で貸付する制度を実施しており、企業が支援を受ける際の選択肢が広がった。また、適用される業種や設備の種類に制限がなくなり、利用者が実情に合わせて借りられるようになったと好評だ。

さらに、受発注斡旋などを担当する同協会の11人のアドバイザーは、企業や商工団体などの依頼に応じて、経営指導や研修も行っている。企業情報や業界の動向に詳しい専門家の立場から、中小企業の組織効率化などに有効なアドバイスを提供している。

打田正嗣事務局長は「今後は、取引斡旋と設備投資支援の部門間で情報共有できる体制づくりを進めたい。ISICOとも連携して、より効果的な企業支援を実施したい」と語っている。

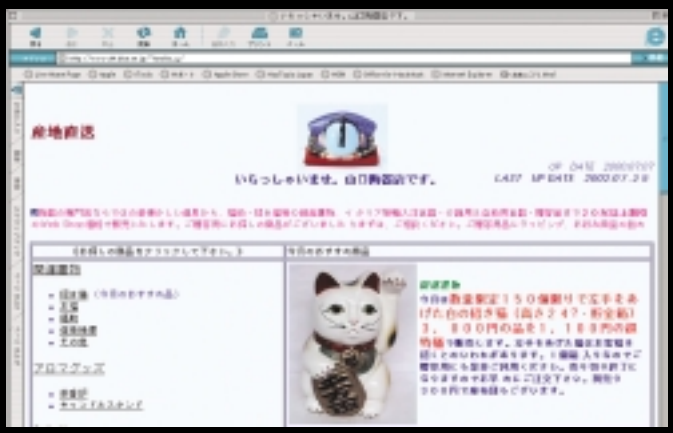
企業の担当者同士が顔を合わせる「受注開拓懇談会」（写真左）の開催や展示会への商品の出展（写真右）、同協会のホームページから登録企業が自由に受発注できるシステムを整えるなど、さまざまな形での情報発信にも取り組んでいる。

● お問い合わせ
金沢市戸水町イ65
石川県地場産業振興センター新館2F
TEL076-267-1140 FAX076-267-3622
http://www.ishikawa-smes.ne.jp

シリーズ第 8回

実例に学ぶ IT戦略

ITをビジネスに生かすためのポイントは何か。
IT導入の参考としていただくため、
ビジネスにITを積極的に活用している事例をご紹介します。



山口陶器店

珠洲市飯田町12-18
TEL・FAX 0768・82・0108
http://www.d4.dion.ne.jp/~tomiko_y

山口陶器店のホームページのトップ画面。シンプルで見やすいコンテンツづくりを心掛けている。

商圏人口を2万人から4,700万人(※)に拡大

ネット販売が売り上げの40%に

珠洲市中心部の飯田町商店街で50年以上、陶磁器を専門に扱ってきた山口陶器店では、2年前からネット販売に力を入れている。ホームページ上に和食器や洋食器、アニメキャラクターの食器、置き物など多彩な品をそろえ、定価の20%以上の割引価格で販売している。また、企業のイメージカラーやロゴマークなどを取り入れた特注品にも対応している。

陶磁器専門店のホームページがまだ少ないことや商品を写真付きで紹介している点が注目を集め、電話やEメールを通じて1日に10件以上の注文が届き、今や売り上げの40%以上はネット販売が占めるまでになっている。客層は若い個人客や企業、大量の食器類を必要とする福祉施設が中心で、日本のアニメ人気を反映して、イタリアやフランスなど海外からの引き合いもあるそうだ。

逆風をバネに全国へ顧客開拓

ネット販売を始めた背景には、奥能登への大型ホームセンター等の進出によって商圏内の客が流れ、売り上げが減少したことがあった。山口陶器店では、この問題を解決するため全国がマーケットになるネット販売に取り組み始めたわけである。

最初は、近くの倉庫にあった在庫品をオークション形式で販売した。倉庫の中には、数十年前のアニメキャラクターのグッズなど、今では希少価値の高い品が多く、仕入れたときの3倍以上の値段で売れた商品もあったそうで、1年も経たないうちに、倉庫の中にあった品は完売してしまった。

その後も当初予想した以上にネット販売は、伸び続けた。しかし、その一方で、新たな課題が見えてきた。茶わん1個でも商品を取り寄せなければならず、その送料負担がコスト上昇を招いているのである。

このため同店では現在、売れ筋商品を見極め一括発注することで、1個当たりの単価と送料を抑えるとともに、大口の受注が見込める企業や福祉施設の顧客化を図っている。問い合わせのあった企業や施設には、「現物をサンプルとして送り、商品をPRしています。営業で出向く経費を考えたら、その方がずっと経済的です」と話す店主の山口あい子さん。今後も、新たな顧客の獲得とコストの抑制に知恵を絞っていく。

珠洲市の飯田町商店街にある山口陶器店。

※珠洲市の人口は約2万人、日本のインターネット人口は約4,700万人

INFORMATION TABLE

インフォメーションテーブル

起業・新分野進出のほか、経営や技術の高度化などに役立つ情報を紹介するページです。

セミナー

経営力UP、技術力UP等に役立つセミナーのご案内です。

日程	テーマ	場所	時間	費用	お問い合わせ先
9月2日(月)	■ **バーチャルショップ道場** 「レベルアップコース」	県ソフトウェア研修開発センター	13：00～17：00	3,000円	県産業創出支援機構 TEL 076-267-1145
9月4日(水)	■ **ベンチャー・ビジネス実践論講座**	北陸先端科学技術大学院大学	11：00～16：40	無料	北陸先端科学技術大学院大学 TEL 0761-51-1169
9月5日(木) 6日(金)	■ **戦略的なマーチャンダイジング概論** 「マーケットイン体質の獲得にむけて」	県ソフトウェア研修開発センター	10：00～16：00	80,000円 (県内企業の方は40,000円)	県ソフトウェア研修開発センター TEL 076-267-8000
9月5日(木) ～7日(土)	■ **基本情報技術者対策講座**	県工業試験場	9：00～17：00	5日、7日14,000円 6日12,000円	県ソフトウェア研修開発センター TEL 076-267-8000
9月6日(金)	■ **ベンチャー・ビジネス実践論講座**	北陸先端科学技術大学院大学	9：20～18：20	無料	北陸先端科学技術大学院大学 TEL 0761-51-1169
9月7日(土)	■ **金沢学院大学公開講座** 「ビジネスの創造に向けて」第1回	富山県民会館	13：00～16：30	無料	金沢学院大学 TEL 076-229-8829
9月10日(火) ～11日(水)	■ **石川県産業大学講座** 「HDL設計及びFPGA設計講習会」	北陸VDECサブセンター (金沢大学工学部内)	9：30～16：30	2,000円	県産業創出支援機構 TEL 076-267-8108
9月13日(金) ～15日(日)	■ **技術資格認定講習会** 「LAN設計コース」	県青少年総合研修センター	9：00～17：00	会員45,000円 (会員外60,000円) 認定料3,000円	情報通信設備協会北陸地方本部 TEL 076-238-8383
9月14日(土)	■ **金沢学院大学公開講座** 「ビジネスの創造に向けて」第2回	北國新聞会館	13：00～16：30	無料	金沢学院大 TEL 076-229-8829
9月17日(火)	■ **バーチャルショップ道場** 「レベルアップコース」	県ソフトウェア研修開発センター	13：00～17：00	3,000円	県産業創出支援機構 TEL 076-267-1145
9月18日(水) 19日(木)	■ **ISICOベンチャースクール　パート1** 「ビジネス・アイデア発想法」	県地場産業振興センター新館	10：00～17：00	1,000円	県産業創出支援機構 TEL 076-267-1244
9月20日(金)	■ **石川県産業大学講座** 「生分解性プラスチックX」	トライアル・ラボ第2研修室 (県工業試験場2F)	13：30～16：00	1,000円	県産業創出支援機構 TEL 076-267-8108
9月20日(金)	■ **省エネルギー推進セミナー**	県地場産業振興センター新館	13：30～16：30	無料	県産業創出支援機構 TEL 076-267-1244
9月24日(火) 25日(水)	■ **ISO14001内部環境監査員養成支援セミナー**	県地場産業振興センター新館	10：00～18：00	20,000円	県産業創出支援機構 TEL 076-267-1244
9月26日(木) ～28日(土)	■ **第5回アジア太平洋科学技術研究フォーラム第1部** 「公開フォーラム」	金沢市文化ホール	9：30～17：30 (28日は～17：00)	無料	北陸先端科学技術大学院大学 TEL 0761-51-1170
下記参照	■ **金沢市技術開発ゼミナール** 「機械加工コース」	県工業試験場	13：30～16：30	無料	市異業種研修会館 TEL 076-240-1934
	日程　9月30日(月)・10月7日(月)・10月21日(月)・10月28日(月)・11月11日(月)・11月18日(月)・11月25日(月)・12月2日(月)				
9月30日(月) 10月1日(火)	■ **第5回アジア太平洋科学技術研究フォーラム第2部** 「国際シンポジウム」	北陸先端科学技術大学院大学	未定	無料	北陸先端科学技術大学院大学 TEL 0761-51-1170
10月3日(木)	■ **石川県産業大学講座** 「三次元測定機の操作技術(フォロー研修)」	小松鉄工機器協同組合 小松精密測定センター	10：00～16：30	無料	県産業創出支援機構 TEL 076-267-8108
10月9日(水) 10日(木)	■ **ISICOベンチャースクール パート2** 「ベンチャー経営に関する基礎知識」	県地場産業振興センター本館	10：00～17：00	1,000円	県産業創出支援機構 TEL 076-267-1244
10月15日(火) 16日(水)	■ **ISO14001内部環境監査員養成支援セミナー**	県地場産業振興センター新館	10：00～18：00	20,000円	県産業創出支援機構 TEL 076-267-1244
10月23日(水)	■ **石川県産業大学講座** 「プラスチック射出成形の理論と実際3」	トライアル・ラボ (県工業試験場)	13：30～17：00	1,000円	県産業創出支援機構 TEL 076-267-8108
11月21日(木)	■ **石川県産業大学講座** 「真円度測定機の操作技術(フォロー研修)」	小松鉄工機器協同組合 小松精密測定センター	10：00～16：30	無料	県産業創出支援機構 TEL 076-267-8108

イベント

ビジネス関連の各種フェア・シンポジウム等のご案内です。

日程	テーマ	場所	時間	費用	お問い合わせ先
9月11日(水)～13日(金)	■ **中小企業ビジネスメッセ2002** 中小企業テクノフェア2002同時開催	インテックス大阪	10：00～17：00 (最終日は～16：00)	無料	県ニュービジネス創造化協会 TEL 076-268-1919
9月25日(水)～27日(金)	■ **中小企業ビジネスメッセ2002** 中小企業テクノフェア2002同時開催	東京ビッグサイト	10：00～17：00 (最終日は～16：00)	無料	県ニュービジネス創造化協会 TEL 076-268-1919
10月10日(木)～14日(月)	■ **第14回全国生涯学習フェスティバル** 生涯学習見本市「先端科学技術と身近な世界」	県産業展示館4号館	10：00～16：30	無料	第14回全国生涯学習 フェスティバル実行委員会事務局 TEL076-223-5180
10月29日(火)30日(水)	■ **中小企業IT国際フォーラム＆フェスタ2002**	県立音楽堂、 金沢全日空ホテル	13：30～17：15 (フェスタは10：00～18：00)		県産業創出支援機構 TEL 076-267-1145 おすすめ！詳細は7P
11月20日(水)21日(木)	■ **2002中小企業ビジネスフェアin名古屋**	名古屋中小企業振興会館	10：00～17：00	無料	中部経済産業局 TEL 052-951-2748

●全国地域デジタルアーカイブ研究大会2002 in ISHIKAWA

全国各地の地域デジタルアーカイブ推進団体が集う初の研究大会が、デジタルアーカイブ推進協議会と石川県の主催により行われます。

研究大会「デジタルアーカイブと地域経営／地域ブランドの確立と文化経済」

【基調講演】 武邑光裕（東京大学大学院新領域創成科学研究科助教授）
【地域事例研究】 地域におけるデジタルアーカイブ推進の現状と課題
【中央省庁政策報告】 今後のデジタルアーカイブ推進政策
■ **日時**／10月30日(水)　13：30～17：30
■ **会場**／県立音楽堂邦楽ホール

ビジネス交流会

研究大会参加者による交流会です。
■ **日時**／10月30日(水)
19：00～22：00
■ **会場**／金沢ケントス(金沢市片町)
■ **料金**／入場料3,000円

紹介ブース

全国各地のデジタルアーカイブ推進団体とその活動をパネルや映像で紹介します。
■ **日時**／10月29日(火)・30日(水)
■ **会場**／　金沢全日空ホテル

● **お問い合わせ**　県産業政策課 TEL.076(223)9187

●ISP昼食会のご案内

気軽に仲間づくりをしませんか

いしかわサイエンスパーク内に立地する北陸先端大と進出企業、支援機関などで組織する「ISP交流会」では、毎週木曜日に「ISP昼食会」を開催しています。昼食会といっても形式張ったものではなく、ランチを食べながら雑談をするだけ！お誘い合わせの上、多数のご参加をお待ちしております。

■ **日時**／毎週木曜日　正午～午後1時
■ **場所**／石川ハイテク交流センターレストラン

●ビジネスプラン発表者を大募集

石川県とISICOでは、ベンチャー企業と投資家や企業などのビジネスパートナーとの出会いの場として、石川ベンチャーマーケット事業・ビジネスプラン発表会を下記の日程で開催します。新企画、新製品、新技術など新たな事業展開を計画・実施されている企業の皆さま、この機会にぜひご応募ください。

■ **開催日**
●第1回 9月26日(木) ●第2回 11月13日(水)
■ **開催時間**／13：00～17：00
■ **会場**／県地場産業振興センター(金沢市戸水町)
■ **応募資格**／21世紀を担う新製品、新サービスの開発といった活動に取り組んでいる中小企業者・1年以内に創業予定の起業家で資金面での支援、または開発・販売などのビジネスパートナーの協力をお求めの方

※応募者多数の場合は、審査の上、発表者を決定させていただきます。
■ **応募締切**
●第1回 9月12日(木) ●第2回 10月24日(木)
■ **備考**
発表希望者を対象としたビジネスプラン作成相談会を予定しています。
■ **お問い合わせ・お申し込み**
県産業創出支援機構 TEL.076(267)1244

●民間ITインキュベート施設を新たに認定

ISICOがSOHO事業者の起業促進を目的に認定している「民間ITインキュベート施設」に、新たに「Design Cube」（金沢市）を認定しました。認定施設に入居するSOHO事業者には、パソコン機器や什器備品、通信費等の助成制度(※)があり、ビジネスプランの審査を経て、予算の範囲内で助成いたします。
※助成内容 ● 機器購入等 320,000円以内● 通信費等 月額15,000円以内

「Design Cube（デザインキューブ）」

■ **所在地**／金沢市昭和町5番12号
■ **通信環境**／インターネット専用回線
Bフレッツ(10Mbps)
■ **部屋数**／9室
■ **賃料**／月額35,000円～60,000円
(管理費5,000円～10,800円)
■ **入居区画面積**／7.50m²～17.76m²
■ **TEL**／076(263)6434

TOPICS
イシコ・トピックス

つくばとの共同研究への第一歩
「つくばへ行こう！」開催中

つくば研究学園都市との交流事業を推進している石川県では、これまで培ってきたつくば在住研究者とのネットワークを県内企業の研究開発に役立ててもらおうと、つくばを訪れ研究者との交流を図る「つくばへ行こう！」を実施している。内容は、「つくば講座」と「つくば研究室訪問」の二つ。「つくば講座」では、毎回テーマを変えながら国立研究所の技術シーズや最新の研究情報について講演を聞き、「つくば研究室訪問」では、県産業創出支援機構のつくば駐在員がコーディネートし、参加者が関心のある国立研究所研究室を訪れる。年10回開催され、今年はあと5回の開催を予定。今までになかった視点や新たな事業展開を模索する企業は、ぜひ参加してほしい。

開催日時

●10月10日(木)・11日(金)／産業技術総合研究所　つくば東事業所
●10月24日(木)・25日(金)／産業技術総合研究所　つくば中央第5事業所
●11月14日(木)・15日(金)／産業技術総合研究所　つくば中央第3事業所
●11月28日(木)・29日(金)／農業生物資源研究所
●12月12日(木)・13日(金)／産業技術総合研究所　つくば西事業所

※初日に「つくば講座」、2日目に「つくば研修室訪問」を実施します。(参加者多数の場合)

対象者

石川県内の大学・公設試験研究機関・企業等の研究者及び技術者

参加費

無料（現地までの旅費と宿泊費は自己負担）

締め切り

開催日の一カ月前

お問い合わせ

県産業創出支援機構 プロジェクト支援部　TEL. 076(267)6291

ITで新たなマーケットを探る
小松市でSOHO事業者セミナー

「SOHO事業者セミナー」は7月11日、小松市役所で開かれ、小松市内のSOHO事業者や商店主ら30名が参加した。セミナーでは、税理士の石田進行氏が「経営に役立つ実務知識」と題して、税務・会計など経営に関する取り組みについて講演した後、京都府内でIT活用型マーケティングコンサルタントを経営する咲本勝巳氏（時計台ネット代表）から「スモールビジネスのためのe-商売戦略」と題し、ウェブ上でのマーケティング戦略等について、バーチャルモールや特徴的なホームページなどの事例を取り上げながら、ホームページ運用の厳しさや新たなマーケット開拓の方法論について解説した。

約80人の若手技術者が交流
第2回若手産学官連携模索セミナー

ISICOでは、6月7日に県地場産業振興センターで石川県産業大学講座「第2回若手産学官連携模索セミナー」を開催し、参加した約80人の若手技術者、研究者がネットワークづくりの機会をもった。当日は、一昨年にノーベル化学賞を受賞した白川英樹博士と共同研究を行った筑波大学の赤木和夫教授が講演。その後、参加者は、「環境リサイクル・生活・食品・バイオ」など4つのテーマごとに、各自の研究内容を紹介し、活発に意見を交換した。最後に行った工業試験場の見学会では、参加者から非常に多くの質問が寄せられ、予定時間を大きくオーバーするなど実り多いセミナーとなった。

Ishikawa Sunrise Industries Creation Organization

財団法人
石川県産業創出支援機構
Ishikawa Sunrise Industries Creation Organization

●お問い合わせは
TEL:076(267)1001
FAX:076(268)4911
〒920-0223　石川県金沢市戸水町イ65番地
石川県地場産業振興センター新館1階
URL　http://www.isico.or.jp
E-mail　info@isico.or.jp

編集後記

この厳しい経済環境の打開策を探るため、今回は「経営革新」について特集しました。「経営革新」と一言でいっても、コア・コンピタンス経営、ERP、eコマース…その手法は千差万別。ISICOでは、今回の特集でお世話になった北嶋アドバイザーをはじめ力強いアドバイザーが常駐しています。経営革新の第一歩をお考えの方は、お気軽にご相談下さい。

［発行月］2002年8月（年4回発行）　［発行所］財団法人　石川県産業創出支援機構　［編集協力］ライターハウス／金沢市問屋町1丁目75番地

R50 古紙配合率50%再生紙を使用しています